

令和3年度事業報告

令和3年4月1日～令和4年3月31日

NPO法人 福岡すまいの会

1) 総括

- ・福岡県指定居住支援法人としての活動継続
- ・福岡市就労自立支援センター、市内三か所で運営事業受託継続
- ・福岡市アセスメントセンター運営事業受託継続
- ・福岡県／福岡市ホームレス自立支援推進協議会への参加
- ・福岡県／福岡市居住支援法人連絡協議会への参加
- ・福岡市精神保健福祉協議会への参加
- ・国土交通省「令和4年度住宅市場整備推進等事業費補助金」交付
- ・赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援 全国キャンペーンいのちをつなぐ支援活動を応援！～支える人を支えよう～ 交付
- ・臨時総会にて理事・芹田博（新任）を追加選任
- ・職員の福利厚生充実のため退職金制度を創設（中退共加入）

2) 就労支援事業

- ・福岡市就労自立支援センター及びアセスメントセンターの運営を継続受託
- ・福岡市就労自立支援センター市内三か所の小規模事業所形式で運営
- ・福岡市就労自立支援センター、昨年度の事業所の定員不足に伴い定員を2増（旧定員24人から新定員26人）
- ・アセスメントセンターの稼働率により、福岡市への返納金発生
- ・三事業所およびアセスメントセンターの情報共有のため、VPMネットワーク（仮想専用回線）による情報共有システムおよび、filemaker serverによる統合データベースを運用
- ・株式会社博運社と連携し、就労体験研修をスタート。
- ・COVID-19 感染症対策のため、事業所間会議・研修をオンライン化、検温、消毒の徹底、マスク配布、非常食料の備蓄強化などを実施
- ・新規入所者平均年齢が39.7歳になり、初めて40歳を下回る。
- ・就労自立割合は40%（昨年度39%と変わらず）

3) 住居支援事業

- ・居住相談件数 176件（前年比4%増）
- ・居住支援に関し、国土交通省「令和4年度居住支援法人活動支援事業補助金」を4月～1月末まで利用

- ・サポートホーム（サブリース）利用者総数 73名
- ・サポートホーム（サブリース）利用者変動数
 - 和白地区 : 入居3名 退去3名
 - その他東区 : 入居1名 退去1名
 - 城南区 : 入居2名 退去3名
 - その他 : 入居0名 退去0名
- ・保証事業の利用者 : 入居0名 退去4名
- ・緊急連絡先引受のみ対応 : 入居6名(緊急連絡先引受総数18名)
- ・一般住宅のゴミ屋敷化・医療搬送事例で転居対応(1名)
- ・入院中の住居喪失者に介護施設入所までの一時サポートを提供(1名)
- ・住居支援についての統合データベースシステムを運用中
(filemaker pro19 Advanced を利用)
- ・死後事務委任を引受、霊園予約、法務局遺言書預かりなど対応
- ・高齢者住宅財団による包括的保証委託契約を利用継続

4) 諸相談事業

- ・“法律相談”福岡県弁護士会と実施
- ・Web相談、電話相談実施
- ・相談件数 実人数 191人
(男性130名、女性47名、世帯13世帯 不明1名)
前年比4.9%増(7年連続増)
相談者のアセスメントセンター入所9名 女性シェルター入所1名
- ・相談支援についての統合データベースシステムを運用中
(filemaker pro19 advanced を利用)
- ・赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援 助成金を利用して、困窮相談に対する食料の緊急援助を実施。
- ・AMAZON 欲しいもののリストを利用し、保存食料等の寄付を受領(緊急支援物資、日用品、保存食料など)
- ・就労支援センター退所者のアフターケア事業継続

5) 生活支援事業

- ・サポートホーム入居者2名が自宅にて死去
- ・サポートホーム入居者1名、被保証人2名が介護施設等へ入所
- ・被保証人2名が自立転居
- ・サポートホーム入居者3名が自主退去
- ・家庭訪問と電話による安否確認を実施中
- ・コロナワクチンの接種予約のサポート、会場送迎(約20人)

- ・高齢化に伴う生活支援方策について各機関と連携中
- ・20代前半の若年入居者による近隣トラブルに対応し転居支援（1名）
- ・依存症対応のため「ジャパンマック福岡を支える会」会員を継続
- ・触法障がい者・高齢者支援のため「福岡地域生活定着支援協議会」会員を継続
- ・入居者3名の債務相談に対応

6) 障がい者福祉事業
実施なし

7) 広報

- ・Facebookの活用、ホームページとの連動
- ・メディア掲載、放映履歴
 - ・西日本新聞連載コラム“すまう つながる”隔週火曜日連載を開始
- ・調査研究、研修協力
(研究協力)
 - ・早稲田大学人間科学学術院 古山周太郎准教授 研究ヒアリング
 - ・日本 NPO 学会第23回研究大会（東北大学）
パネルセッション共同発表“NPOのビジネス志向と倫理”
 - ・ナラティブアプローチを活用した、草の根NPO「振り返り」評価手法の構築（トヨタ財団助成プログラム）アドバイザー
(研修協力・講師)
 - ・福岡市・市民公益活動担い手発掘プログラム
コレクティブふくおか+ 講師
- ・講演活動や委員会参加等
 - ・福岡県ホームレス自立支援推進会議 委員として参加
 - ・福岡市ホームレス自立支援推進会議 委員として参加
 - ・福岡県・居住支援法人連絡協議会 委員として参加
 - ・福岡市・居住支援法人連絡協議会 委員として参加

事業実績（生活困窮者の自立支援及び諸相談）

事業名	住居支援	生活相談	就労支援	職業紹介	法律相談	障がい者支援
相談者数	176人	159人	112人	112人	29人	0人
社会復帰・自立者数	22人	22人	68人	0人	15人	0人

※ 相談者数は実人数。実際の相談回数はこれより増える。

※ 住居支援相談者数には電話相談を含み、生活相談と一部重複している。

※ 就労支援のうち就労による自立者数は32人

令和3年度 事業の実施に関する事項報告

(1) 特定非営利活動に関する事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
生活困窮者の自立のための住居支援事業	住居相談	毎日	事務局	4人	福岡市内の生活困窮者 : 176人	28,018
	サポートホームの運営	毎日	東区、城南区 南区、博多区等	6人	入居者 73人	
生活困窮者の自立のための保証人活動事業	保証人活動	随時	事務局及び 各自の住居	5人	連帯保証をしている人 27人	
生活困窮者の自立のための生活支援事業	生活支援	随時	各自の住居	6人	自立者 118人	0
生活困窮者の自立のための就労支援事業	就労支援	毎日	博多区保護三課、 就労自立支援 センター、アセス メントセンター	17人	就労自立支援センターと アセスメントセンター 入所者 112人	89,650
生活困窮者の諸相談業務事業	緊急支援	随時	事務局および、 各自の住居	4人	福岡都市圏の生活困窮者 29人	0
	生活相談	随時	事務局	4人	福岡都市圏の生活困窮者 159人	0
生活困窮者の自立支援に関する調査・研究事業	調査・研究	実施なし				0
生活困窮者の自立支援に関する出版事業	出版	実施なし				0
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	グループホームの運営	実施なし				0
有料職業紹介事業	職業紹介	通年	事務局	10人	センター入所者他 112人	0

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
文化事業	講演など		実施予定なし			0
物品販売事業	物品販売		実施予定なし			0

(資料)

【メディア掲載】

西日本新聞 “すまう つながる” 隔週火曜日連載

2021年(令和3年)4月13日 火曜日

西日本新聞

すまう つながる

生きた証しを刻む

はじめまして、「福岡すまいの会」事務局長の服部広隆です。これから「すまう つながる」の題で連載をさせていただきます。

私たちの会は、福岡市内を中心に生活困窮者、特に住居を失った人の相談に応じています。また、住まいを提供する活動の中から、入居者への継続的な見守り活動を通して、時に旅立ちまでの支援をしています。

連載で何を伝えるか、大変悩みました。私たちは自治体の仕事として、あるいは団体独自の支援として、年間300人以上の相談を受けます。ただ、メディアに相談者のお話をすることはありません。「困窮者を紹介して」という依頼も基本的にお断りします。困った人にとって、秘密を守ってくれるからこそ安心してできる相談先となるからです。

では、何を話せるだろうと考えたとき、亡くなった人のことを少しだけ伝えられたらいいと思いました。今は亡き人にもプライバシーがあるし、また、加工された美談にするのも裏切りのように思えます。しかし、そうした人が確かに生きていたことは、誰かに知ってほしい気がするのです。

身寄りもない人が、苦しみながらも確かに生きたことが、社会でなかったようにされることは、どこか違うような気持ちがあります。せめて生きた証しを刻みたい。そのへらへはきつと許してくれるだろうと。どこかにいた、知らない誰かの話で、少しだけ耳を貸していただけたら幸いです。

※NPO法人「福岡すまいの会」事務局長の服部広隆さん(39)が、寄り添いの日々を紹介しています。

2021年(令和3年)4月27日 火曜日

西日本新聞

すまう つながる

読書家のKさん

連載をどなたの物語から始めるか。大変悩みますが、一昨年に62歳と亡くなったKさんの話を2回にわたり紹介したいと思います。

Kさんは子どもの頃「親からコントロールされた」という意識が強く、恨み節を何度か聞かれました。成績優秀で国立大学に進学しましたが、突然、何もかも捨てたくなって中退し、水商売や肉体労働を転々とする生活になりました。時に路上で人と言い争いになり、トラブルを起こしたこともあったそうです。

やがて家を失い、私たちと出会いました。当時、Kさんはプライドが高く、こだわりが強いという印象でした。家に入居した日、たぐさんの本を持ち込み、「最近、仏教と科学の本を読んでいるんですけどね。いや、そんな難しい話じゃありません。そこはつながりが…」と、あまりに長く話をされるので「ちよっとごめんなさい、忙しくて」と話を切って退散しました。

その後、レジャー施設管理の仕事をしながら自立して暮らし始めたのですが、「物が二重に見えて煩がヒリヒリする」と言うようになりました。総合病院で精密検査をしたものの、「目や脳に異常はない」とのこと。やがて「仕事を辞めようと思えます」と話があり、一緒に生活保護の手続きをしました。

この時は医師の診断がなく、はつきり目に見える症状もなかったため、「仕事がストレスだったのかな」と思っていました。でも、Kさんの体は徐々に病に言われていったのです。

()「福岡すまいの会」事務局長、服部広隆